



沢田内科医院

ニュースレター Vol.2

インフルエンザは流行せずに冬が終わりそうです

今年の冬はインフルエンザの流行がない代わりに雪が多く、雪片づけのために腰や腕が痛くなった人が多かったようです。いかがお過ごしでしょうか。

さて、「沢田内科医院ニュースレター」を1月に創刊しましたが、たくさんの方からおほめの言葉をいただきました。それに元気付けられ第2号を発行することが出来ました。何ごとも1度始めたことは続けてみるのが大切ですので、引き続き2ヶ月に1回発行する予定です。このニュースレターで皆様に私たちの医院のことを少しでも分かっていただければ幸いです。ちなみに、こちらからの押し付けでしたが、創刊号は1,100部発行いたしました。



診察机の上、電話の隣に住んでいるブタです。

世の中には信じられないことが3つある

食道癌の泉さん（仮名）は国立病院へ入院しました。狭くなった癌の部分は放射線療法で軽快し、おもちゃを食べられるようになりました。事情があって内視鏡検査は当医院で行っていただきましたので、そこを見ると多少狭くはなっていましたが内視鏡は余裕を持って通るようになり、潰瘍はなくなっていました。

ところが胸に水がたまり再入院となりました。予後がよくないことを悟った泉さんは落胆してしまいました。残された命がそれほど長くはないことを主治医から言われたからです。同居している息子の奥さんが私の医院に受診した時にこの話を伺いましたので、何か元気づけようと私はメモを渡しました。

「世の中には信じられないことが3つある。男のひと言、女の涙、そして、医者診断」と書きました。

泉さんはこれに元気づけられたようで、主治医も間違うことがあると言い聞かせ（国立病院の高橋修先生、ゴメンナサイ）、このメモをいつもポケットに入れていたと後で聞きました。結局、私の医院に来ることなく泉さんは亡くなりましたが、生きている限りは何か希望がなければ毎日が苦痛以外の何ものでもないと感じました。

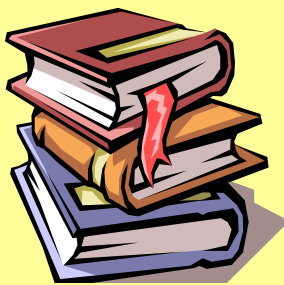
男のひと言はともかく、女の涙にだまされた人は数知れないでしょう。医者診断があてにならないことは私たち自身がよく知っています。この場合に適当であったかどうかは分かりませんが、この格言？が泉さんに希望を持たせたことは事実です。

私たちの医院の特色は消化器疾患と血液疾患

沢田内科医院は個人開業医院ですので高血圧や糖尿病など一般内科の診療を行っていますが、消化器疾患と血液疾患については特に専門的な医療サービスを提供することが出来ます。私は弘前大学第1内科と青森県立中央病院消化器内科勤務中に消化器内視鏡学会認定専門医と血液学会認定医・指導医の資格を得ました。また、内科認定医の資格も持っていますので、これらの資格を5年ごとに更新しなければなりません。

更新のための教育講演会は東京、仙台などで休日に開催されますが、全国各地から参加

する人たちの帰りの時間を考慮したスケジュールが組まれていますので、弘前から出席することが出来ます。しかし、開業医として診療しながら県外で開かれる消化器病と血液病の両方の学会に出席することは不可能であり、昨年は血液学会認定医・指導医の資格を更新できませんでした。現在は雑誌だけでなくインターネット、ビデオなどで最新の情報を得ることが出来ますので、認定資格に関係なく医療レベルを維持していきたいと思っています。



待合室の本はいつでも貸し出しています。

一生のうちに読める本は限られています。私は1冊の本を吟味しながら何回も読み返すタイプではありません。そこで、読み終えた本は外来待合室の本棚に置いています。興味のある方は自由にお読みください。自宅へ持ち帰って読んでいただいても結構です。読み終えたらお返してください。

小 椋 佳

先日、弘前市民会館で小椋佳のコンサートがありました。57歳であることを何回となく繰り返し強調していましたが、デビュー30年を記念したコンサートでした。前に比べ声につやがなくなったように私は感じましたが、豪雪が続く今年の冬の影響で少し風邪気味だったのかも知れません。

私が小椋佳を知ったのは大学2年、今から30年前である。高校同期の友人の渋谷君が、「すごいのが出た。甘い声をしているが、このジャケットの写真の人ではない。本職は銀行員らしい。」と「彷徨（さまよい）」という題のLPを持ってきました。それが小椋佳でした。彼は浪人2年目の身でしたので勉強第一、私がそのLPを借りっぱなしにし何回も繰り返し聴きました。「しおさいの詩」、「木戸をあけて」、「少しは私に愛を下さい」など静かな寂しい歌ばかりでした

が、メロディー、歌詞、歌声、どれもすばらしく、すぐにファンになってしまいました。



大学を卒業してからは歌を楽しむ余裕もない生活を送っていましたが、88年に県立中央病院へ赴任してからCDを買い集め、コンサートへも足を運びました。今回のコンサートは弘前では2度目でしたが、前回

我が家で開花したアマリリス

今年は2本の茎にそれぞれ4個の大きな花が開き、約1ヶ月咲き続けました。これは1本目の茎に花が咲いた頃の写真です。この後、葉っぱのまままで秋に霜が降りる頃まで栄養を蓄え、冬の間は球根のままで過ごし、来年の2月には再び花を開いてくれることでしょう。



この真っ赤な花を咲かせるアマリリスは花が大好きな高谷さんからいただいたもので、我が家では3度目の冬です。



花が大好きな高谷イセ子さんと小田桐婦長

とは全く違う印象を持ちました。デビュー30年ということで、その当時の歌が多かったせいでしょうか。「さらば青春」などを聴いていると、大学時代のことが頭の中に鮮明によみがえってきました。その歌の作られた背景が語られるとその情景が分かり理解が深まるのは当然ですが、若い頃の自分と重なってしまうのでますます忘れられない歌になってきました。

小椋佳は声が澄んでいて、メロディーが素晴らしいだけではありません。私はその詩の方が好きです。素直で、意味が深く、そして感情を表す言葉がどうしてこんなに浮かんでくるのでしょうか。例えば、「シクラメンのかほり」を思い浮かべてみてください。どうすればこれだけ見事に気持ちを表現できるのでしょうか。自分の周りを通り過ぎていくことや時間を私とは違った目と心で見ているのでしょうか。私は小椋佳を聴き続けてきて言葉

を大切にしなければならないことを知りました。

小椋佳の歌は美空ひばり、布施明、井上陽水、堀内孝雄などたくさんの人によって歌われています。メロディーには連続性が感じられますが、年とともに成熟してきているように思います。最近では五木ひろしが「山河」というスケールの大きな歌を歌っています。時の流れに逆らうかのよう「今」を大切に、その上に自分の未来を築こうとしている、つまり、時代に迎合して売れるように作った歌ではなくて、自分の気持ちを素直に表現した歌だと私は思います。こんな歌を聴くと、私もこのように成長してきているのだろうかと思ひ返してしまいます。

その後、渋谷君は仙台の大学へ進学し、今は静岡の御殿場で奥さんと歯科医院を開業しています。LPレコードは返すこともなく私の家にあります。

スタッフ紹介 ... 検査・事務職員

左から

沢田 正人（検査）
沢田 和枝（事務長）
工藤 悦子
工藤 工



佐和家（さわや）

本町の小堀旅館の向かいにある「佐和家」は私の弟の店です。青銀弘前支店の近くにあった「じぱんぐ」を移転したものです。

和食レストランと銘打っていますが、中三や福住と競合するような店ではありません。安さと気楽さが売りものですので、仲間の宴会にでも使ってもらえれば十分です。家族で夕食に寄ってもらっても結構です。電話は 37-0055 です。



医院のホームページもご覧ください。

このニュースレターの内容はホームページと重複している部分が多いです。

診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:30	診療						休診
12:30~ 2:00	昼休み			昼休み			
2:00~ 6:00	診療	休診		診療	休診		

※時間外と休日は電話(37-7755)でご連絡をお願いします。
入院病棟に必ず看護婦がいます。

所在地



発行：〒036-8261 青森県弘前市茂森新町 1-6-4
ホームページ：<http://www.jomon.ne.jp/~ysawada/>

沢田内科医院 院長 沢田美彦
TEL 0172-37-7755 FAX 0172-37-7788